

障がい者の社会への“完全参加と平等”を！

ときめき Fukuoka



“分かり易さ”を原点に

ユニバーサルな、ゼネラルアサヒの点字カレンダー

- 05 福障協だより「障がい者週間記念の集い」
- 07 身障協だより「地域で頼りになる民生委員児童委員」
- 08 政令市連絡協議会・親善スポーツ大会
- 11 11月・12月の企画展示情報～福岡市介護実習普及センターより～

2023.11
No.272



“分かり易さ”を原点に

ユニバーサルな、ゼネラルアサヒの点字カレンダー

今回は、株式会社ゼネラルアサヒの点字カレンダーを取材しました。

創業昭和30年の同社は、現在社員600名を抱える企業で、福岡を本社に、東京、名古屋、大阪、北九州に事業部や営業所を展開しています。印刷業はじめ、Web制作、動画制作等、業界内でも有数の企業です。

同社が例年作成している点字カレンダーは、企業の社会活動の一つとして、希望する視覚障がい者へ無償で配布されています。30年ほど前から作成し始めた点字カレンダーは、毎年高いクオリティで提供されており大変好評です。ゼネラルアサヒ代表取締役会長の松岡弘明様はじめ、担当された社員様からお話を伺いました。

ゼネラルアサヒの理念

松岡会長 創業して20年頃、コンサルタント会社と協議して「原点を追求するゼネラルアサヒ」という理念を掲げることになりました。

その後、一つの疑問が生まれました。それは「原点」とは何か？と。改めて考えなおした時に思ったのは、「原点とは、分かり易さ」だと気付きました。企業と生活者の間で、情報を受け取る生活者にとって「分かり易さ」を感じて頂くことが大事だと。

この「分かり易さ」は、追及すると人間の五感にとつて分かりやすくすることです。印刷業として始まった弊社

ですが、これまでの経営過程で、視て分かり易いようにと動画を取り入れ、聴いて分かり易いようにと音響も取り入れ、出来る限り五感へ分かり易く取り組んできました。

五感全てをと言ってもまだまだですので、匂いを研究している会社と協働したりして、努力を続けています。将来的にはどの感覚器官でも「分かり易さ」を実現し、何よりも「誤解」を生まない情報の発信をしていきたいと思っています。

究極のコミュニケーション

松岡会長 私はこう考えています。スーパーの食材コーナーで、店員さんが「ちよつと食べてみませんか？」と、つま楊枝で押し出した試食品。これを受けて食するお客さん。これが「究極のコミュニケーション」と思っています。誤解を生まない情報の発信のあり方です。このことを弊社にも導入するため、試食品の保管庫を建て、温度と湿度を管理することを始めました。

その試食品を印刷物と一緒にお客様へお渡しすることで、商品とお客様を仲立ちし、誤解を生じない情報提供をするようにしています。消費者が「こんなつもりではなかったのに」という感想を抱かないようにです。

つまり、これが「原点」なんです。結局分かり易さを伝えるのは、現物に勝るものはないということです。

点字カレンダー作成のきっかけ

松岡会長 点字カレンダーの出発点は、社会活動を企業として行うなら何に取組むべきかを考えた時に、私も視力が弱かったので、役に立つのであれば、目に障がいのある方の役に立ちたいと思いました。そこで思い立ったのが点字の印刷でした。でも点字で何を作るか、生活に密着したものは何かと考える、ひらめいたのがカレンダーでした。

更に、目に障がいのある人は、目に障がいの無い人と暮らしている事が多いのではないかとも思い、インテリアとして飾れる、素敵なカレンダーを作ることを決めました。

今から30年前に作り始めたのですが、カレンダーというのは地球に終わりが来ない以上は作り続けなければならぬ。また、会社がある以上は作り続けなければならないと思い、たとえ赤字になっても作り続けていく覚悟を決めました。

点字カレンダーは無償配布

ご担当 中島様 視覚障がい者の希望者には無償で配布しています。郵送料も必要ありません。全国およそ430カ所へ配布しています。印刷は1,500部。販売は一切していません。

カレンダーのテーマについて

松岡会長 当初は、私が考えていましたが、最近では社員が提案してくれま

提案された中から決めていきます。弊社は、印刷はもちろんですが、デザイナーもカメラマンも揃っていますから全て自前で作成できます。

片岡様 会長へテーマを提案する前に、実務者で幾度か協議し、候補を提出します。例年GW明けからスタートしています。

毎年作成チームが代わるのですが、人員は7名ほどです。社員で回していきますから、5年に一度この役目が回ってきます。実は、この業務の専属社員がいましたが、定年退職により、現在のスタイルになりました。

利用者からの反応

中島様 電話やメール、そしてお礼の手紙で嬉しい感想等を頂きます。一部ご紹介しますと、2023年版のオーケストラは、「毎年工夫とアイデアが凝らされ、今回の「オーケストラ」に出会えて誠に嬉しく、QRコードにて各楽器の音色が楽しめます」「視覚障がいがない子供たちも点字と楽器に接する良い機会になります」

2022年版の心に響く日本の音風景「コロナ禍で遠出が難しい昨今、旅行気分が味わえるもので、とても楽しい気持ちになります」「いつも五感に訴える、見て、聞いて、触って楽しめるカレンダーをお送り頂きありがとうございます」



月々で野鳥の声を楽しめる(2024年版カレンダー)



2024年カレンダー作成の様子



初代点字カレンダー 点字も視える印刷が施されている

最近では音で表現できるようにな
った

ご担当 片岡様 QRコードのお陰で、
ここ5年ほどは音で表現できるものを
中心にアイデアを出しています。

今年のオーケストラは、九州大学の
フィルハーモニーオーケストラにご協
力頂き、現場で音源を録りながら撮影
も行いました。ドヴォルザークの「新
世界より」の一部を全体で演奏して頂
き、またパート毎にも演奏して頂き、
収録していただきました。

**来年令和6年・2024年の
カレンダー**

片岡様 来年のカレンダーは、松岡
会長のご提案で野鳥の鳴き声がテー
マになりました。野鳥ですからオーケ
ストラのように現地収録・撮影は難
しいので、東京にあるNPO法人のパ
ードリサーチという団体にご協力頂
きました。

工夫した点は、QRコードを2つ用
い、一つは日本の野鳥の簡単な解説
もう一つは野鳥の声のみです。説明を
聞くのは毎回ではなくとも良いと思っ
ますので、何度も聴きたい野鳥の声だ
けのQRコードを設けています。

最後に…

松岡会長 発行当初は、点字の校正を
視覚障がい者へ依頼しようとお願いま
しましたが、なかなかご協力頂けなかつ

たです。信頼関係が築けてなかったか
らでしょう。しかし、社会活動である
ことをお伝えし、ようやく理解して頂
けました。現在はデータベースを用い
て作成しますので、最終的な校正を
点訳ゆりかもめの皆さんへ依頼して
います。

片岡様 晴眼者に対しても弱視の方
にも綺麗に見て頂く上で、なるだけピ
ジユアル的に、デザインの良い仕上
がりになるようにしています。

松岡会長 このカレンダーは、点字部
分だけでなく、デザインにも凹凸を施
しています。良いデザインでなくては
ならない。よりリアリティがでるよう
にしています。

そう、弊社が願っている五感に訴え
る「見て、聴いて、触って楽しめる」
をこのカレンダーでも行っています。
まさに誤解を生まない、「分かり易さ」
という原点からの発想のお陰で、手に
取った方々に喜んで頂けているのでは
ないかと思っています。

点字カレンダーを「希望の方は、
ゼネラルアサヒ総務・白石様宛へ
ご連絡願います。

お問合せ先

株式会社ゼネラルアサヒ

092(611)8311(代表)



2024年カレンダー作成チームの皆様

2023年カレンダー ドヴォルザークの「新世界より」